“ふるさとちば”のための政策推進を

田畑たけし県議会リポート

発　行／自由民主党千葉県議会議員会　〒260-0855　千葉市中央区市場町2番13号　電 話 043(227)7411

9月県議会一般質問

河川整備で浸水被害ゼロに

誰もが住みやすい街づくりを目指している田畑毅県議（茂原市・1期）は、9月の定例県議会に登壇し、河川整備や産業用地の確保について、県立長生の森公園の整備や道路問題についてなど、多項目にわたって県民・市民の立場から県執行部の考え方をただしました。その概要をお伝えします。

田畑議員　令和8年8月千葉豪雨では千葉県全体で甚大な被害を受けた。

茂原市を流れる一宮川流域では、過去最大の被害があった令和元年や、過去最大の降雨であった令和5年に比べ、その被害は著しく小さいものにとどまった。これも県が、「一宮川流域浸水対策特別緊急事業」を立ち上げ、一宮川改修事務所を設置して、集中的に予算を投入し事業を推進してきた成果の現れと理解している。

しかしながら、今回8月の豪雨が示すとおり、水害はますます激甚化・頻発化しており、決して予断を許さない状況にある。今後も県民の生命や財産を守るため、着実に河川整備を進めていく必要があると考える。

そこで伺う。**一宮川における河川整備の進捗状況はどうか。**

県土整備部長　一宮川中流域においては、これまでに一宮川第二調節池の増設工事が完了し、瑞沢川合流点から豊田川合流点までの約7．1キロメートル区間における河道の拡大工事が概ね完成したところです。

上流域においては、一宮川第三調節池を整備しており、令和7年度末に排水樋門工が完成し、現在、遮水工事を行っているほか、本川上流及び支川の三途川では、設計及び用地測量が完了し、現在、用地交渉を行っているところです。

引き続き、地元の皆様の御理解と御協力をいただきながら、事業の推進を図り、浸水被害の軽減に向けて取り組んでまいります。

田畑議員　**豊田川及び鶴枝川における河川整備の進捗状況はどうか。**

県土整備部長　豊田川については、本川合流点から茂原市役所前までの約0．5キロメートル区間において、堤防の嵩上げ等の対策を行っているところであり、これまでに約0．4キロメートルで堤防高を確保し、残る橋梁箇所に堤防機能を有する陸閘を設置するため、関係者と調整を図りながら、設計を進めているところです。

さらに、合流点から約5．5キロメートル上流に位置する関戸堰から上流側0．6キロメートル区間においては、河川改修を行うための設計及び用地測量が完了したことから、今後、用地交渉を行うこととしています。

また、鶴枝川については、本川合流点から一本橋までの約1．4キロメートル区間において、本年5月に地元住民への説明会を開催し、現在、堤防嵩上げ工事を実施しているところです。

要望　**豊田川においては、今回の豪雨でも河川氾濫が発生している。早急に調査、検証していただき豊田川の氾濫地域の河川整備を進めるよう強く要望する。**

田畑議員　**赤目川における河川整備の進捗状況はどうか。**

県土整備部長　赤目川については、南白亀川との合流点から上総橋までの7．7キロメートル区間において、河川整備を行うこととしており、これまでに南白亀川合流点から新手樋橋上流までの約5．1キロメートル区間の河道拡幅と、その上流側右岸にあるB調節池が完成しています。

今年度は、用地の取得が完了した0．4キロメートル区間の整備を計画的・集中的に進めるため、国の補助事業を新規事業化し、改築等が必要となる萱場堰や萱場堰橋の設計などを進める予定です。

引き続き、堰の改築等を含めた河川整備を進めるとともに、地元市と協力しながら浸水被害の軽減を図ってまいります。

要望　**赤目川については、出来るだけ何も工事をしていない空白期間がないように河川整備計画を立てるよう強くお願いする。調整池の容量を増やすなり、調整池をもう一つ整備するなり、上流地域に何かしらの手立てをしていただきたい。また、赤目川の中流部の浚渫工事を定期的に、早急に行っていただくことを強く要望する。**

産業用地確保のために支援を



9月定例県議会に登壇した田畑議員

田畑議員　「成田空港第2の開港プロジェクト」の進展や圏央道の全線開通により千葉県のポテンシャルは飛躍的に高まることとなる。この機会を捉えて企業誘致を推進し、県内に効果を波及させることが重要だが、県内の産業用地は不足しており、新たな産業用地の創出が必要である。

産業用地整備を進めるにあたっては、農地転用等の土地利用規制が課題となることも多く、市町村のみではノウハウが十分ではなく、対応が困難なケースもあると聞く。

そこで伺う。**産業用地を確保するため、市町村の産業用地整備に係る土地利用規制などの課題解決に向けてどのように支援しているのか。**

知事　「成田空港第2の開港プロジェクト」の進展に伴い、産業用地に対する需要が高まる中、その確保は大変重要な課題であり、県として、市町村による産業用地確保を積極的に支援していくことが必要と認識をしています。

このため県では、市町村が産業用地の整備を検討する段階から、開発に向けた課題等について意見交換を行うとともに、企業ニーズや他団体の先進事例などの情報提供を行っています。また、庁内関係課による相談体制を整え、農地転用等の土地利用規制の課題に対しては、地域未来投資促進法や農村産業法の活用等、各地域の状況に応じた課題解決の手法について助言を行っているところです。

引き続き、市町村の取組が円滑に進むよう、きめ細やかな伴走型の支援を行い、産業用地の一層の確保に努めてまいります。

田畑たけし PROFILE

- 茂原南中、帝京高校（サッカー部）、帝京大学、米・カリフォルニアクレアモント・ピッツァ・カレッジ卒
- 製造業
- 千葉県商工会議所 青年部連合会 会長（H23）
- 茂原商工会議所 理事
- 茂原市議会議員 3期
- 茂原市議会 議会運営委員会 委員長
- 茂原市議会 副議長

●茂原（じもと）の声を県政へ届け実現させます

田畑たけし 県議 事務所

〒297-0032 千葉県茂原市東茂原10　TEL.0475-25-7123

長生の森公園の魅力向上へ

田畑議員　県立長生の森公園は自然の地形や豊かな緑を保全しながら、スポーツ施設や広場、散策路を配置する「人間・スポーツ・環境」をテーマとした公園として、平成6年度から整備が進められてきた。現在では子どもから高齢者まで幅広い世代の方々に利用されている。

令和2年には圏央道の茂原長柄スマートチェンジが開通し、公園へのアクセス性が大きく向上した。これにより同公園の野球場については、県内各地から利用しやすい環境が整い、年々利用者が増加している。

現在、県では野球場の照明設備を進めているが、これにより更なる利便性の向上が図られるとともに、公園全体の魅力向上につながるものと期待される。

そこで伺う。**野球場の照明設備の進捗状況はどうか。**

都市整備局長　長生の森公園野球場は、球場の利用拡大や防災拠点としての機能強化を図るため、照明施設の設置に向け、昨年度、設計を実施したところです。

現在、照明の杭基礎工事を施工しており、工事完了後、速やかに支柱工事や設備工事に着手できるよう準備を進めています。

引き続き、工事期間中の野球場の利用や、公園利用者の安全確保に配慮しながら、早期の供用を目指してまいります。

田畑議員　一方で、同公園内の多目的広場については、野球場など他のスポーツ施設に比べ十分に活用されていないと感じる。

そこで伺う。**多目的広場の利用促進について、どう考えているか。**

都市整備局長　長生の森公園多目的広場は、令和5年の豪雨災害の際に、災害廃棄物の仮置場として茂原市へ提供したことから、これまで利用を制限していましたが、廃棄物の撤去と芝生の養生が完了したため、今年度から利用を再開したところです。

現在、県では多目的広場の利用再開について県民への周知を図るとともに、更なる利用促進に向け、茂原市の意見も伺いながら、今後の活用方策について検討を進めていくこととしています。

引き続き、多目的広場をはじめとして長生の森公園全体が、豊かな自然の中でスポーツや散策を楽しめる魅力ある公園として、多くの方々に親しまれるよう、積極的に取り組んでまいります。


自席から要望する田畑議員

災害に強い道路ネットワークを形成せよ

田畑議員　「茂原・一宮・大原道路」「鴨川・大原道路」は、茂原市を含む外房地域の道路ネットワークの骨格として、圏央道の整備効果を広く波及させ、物流の効率化、観光振興、地域の活性化などに寄与するとともに、災害時には緊急輸送道路としての役割も担う大変重要な道路である。

8月に発生した千葉豪雨では、県内各地で道路冠水や通行止めが発生し、交通に大きな影響が生じた。このため、両路線の整備により、地域の骨格を担う災害に強い道路ネットワークを形成する必要があると考える。

現在、茂原から一宮までの区間については長生グリーンラインとして事業化され、整備が順次進められているが、残る区間についても、切れ目なく事業化に向けた取組を進めていくことが重要と考える。

そこで伺う。**「茂原・一宮・大原道路」及び「鴨川・大原道路」の取組状況はどうか。**

県土整備部長　茂原・一宮・大原道路や鴨川・大原道路などの外房地域の骨格を形成する道路の整備は、先月の豪雨を踏まえ、平常時はもとより、災害時においても安定した人・モノの流れを確保するため、幹線道路ネットワークの多重化という観点からも、重要であると認識しています。

このうち、茂原・一宮・大原道路については、現在、県道茂原大多喜線から一宮町までの区間を長生グリーンラインとして、橋梁や函渠の工事、用地測量などを進めています。

また、鴨川・大原道路を含む一宮町から鴨川市までの区間については、計画の具体化に向け、昨年度から、県と沿線12市町村で構成する会議において、地域特性や交通課題等の把握・整理を進めているところであり、引き続き、地域と連携を強化しながら、優先整備区間などについて検討してまいります。

要望　**茂原市周辺には、小・中学生が安心してサッカーを楽しめる芝生グラウンドが少ない状況にある。長生の森公園の多目的広場をより有効に活用するために利用者を増加させるには、サッカーの試合や各種大会にも対応できるようにすることが有効だと考えるため、施設の充実及び再整備に向けて取り組むことを要望する。**

地域社会を支える人材育成を

田畑議員　千葉県は有数の農業県として発展してきた。農業は地域経済や暮らしを支える重要な産業となっている。

一方で、農業従事者の高齢化や担い手不足が進み、後継者の確保が大きな課題となっているほか、近年は、農業を取り巻く環境も大きく変化している。

このような中、本県の農業を持続的に発展させていくためには、これからの地域農業を担う人材を育てることが何より重要である。県内には農業高校が14校あるが、このような学校には、農業の担い手はもちろん、地域社会を支える人材を育成する役割がますます期待されている。

そこで伺う。**県教育委員会では、農業高校において本県の地域農業を支える人材の育成にどのように取り組んでいるのか。**

教育長　農業経営のグローバル化や法人化、6次産業化が進む中で、農業系高校において、生産技術に加え、地域農業を支える経営感覚を備えた人材を育成することは重要と認識しています。

このため、県教育委員会では、令和6年度に茂原樟陽高校に「アグリマネジメントコース」を設置し、栽培計画から収穫、販売までの一貫した実習により農業経営を学ぶとともに、スマート農業に取り組む農家での実習や、地元イベントでの開発商品の販売など、地域と連携した実践的な学びにも取り組んでいます。

生徒からは、「デジタル技術を使った新しい農業に魅力を感じた」や「より深く農業を学ぶために県立農業大学校へ進学したい」といった声が寄せられるなど、地域農業への興味・関心が高められたところであり、今後も地元農家等と様々な連携をしながら、農業教育の一層の充実に努めてまいります。

要望　**農業高校だけでなく、工業高校においても、地域企業と連携したものづくりや実践的な学びを一層充実させ、将来の地域産業を支える人材の育成につながる取組を、積極的に推進していただくよう要望する。**

田畑議員　県立高校については、学生に選ばれる環境を整備していくことが求められているが、施設整備の遅れの代表が、トイレの洋式化である。

そこで伺う。**県立高校におけるトイレ先行改修事業の進捗状況はどうか。**

教育長　県教育委員会では、令和11年度までにトイレの洋式化を完了するよう進めており、その取組の一つとして、当面、大規模改修の予定がない80校を対象に、普通教室棟の1系統のトイレを全面的に改修するトイレ先行改修事業を実施しています。

この事業は、令和5年度から工事に着手しており、令和7年度末時点で15校の改修を終えましたが、昨年度は工事の入札を実施した15校のうち7校が不調となり、計画に遅れが生じています。

そのため、今年度は、9月補正予算において債務負担行為を設定し、昨年度入札不調となった学校を含めた22校について、工事を発注する予定です。

田畑議員　**計画どおり進めていけるよう、どのように取り組んでいるのか。**

教育長　トイレの改修工事は、生徒の学習環境に配慮し、大きな音が出る作業は夏季休業中に実施する必要があり、また、近年は入札不調が生じていることから、債務負担行為を設定し、スケジュールに余裕を持たせ、入札機会を複数回確保する対応を行っているところです。

併せて、より多くの事業者に入札に参加してもらえるよう、定期的に発注見通しを公表することや、契約から工事着手までに余裕を持たせたフレックス工期契約制度の適用などの対策も講じています。

学校は、生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であることから、着実に改修を進め、トイレの環境改善に取り組んでまいります。